

令和4年度実施施策に係る事前分析表

(文R4-11-2)

施策名	東京大会のレガシーを継承した持続可能な競技力向上体制の構築		部局名	スポーツ庁競技スポーツ課	作成責任者	西川 由香
施策の概要	<p>東京大会における好成績を一過性のものとせず、今後も我が国の国際競技力を向上させるため、中央競技団体が策定する中長期の強化戦略プランの実効化を継続的に支援するほか、ハイパフォーマンススポーツセンターと大学等との連携強化による研究推進や人材育成に取り組み、スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援やトレーニング環境を充実させる。</p> <p>また、H P S Cの知見の還元や地域の関係機関との連携強化等を通じた地域の競技力向上に向けた体制構築、NFにおけるアスリート育成パスウェイの構築等を通じて世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出するなど、持続可能な国際競技力の向上を図る。</p> <p>また、東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、さらなる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献する。また、国際スポーツ界の意思決定や競技発展に積極的に貢献するため、IF等役員ポスト獲得の維持・拡大を目指す。</p> <p>加えて、我が国のスポーツ・インテグリティを高め、クリーンでフェアなスポーツの推進に一体的に取り組むことで、国民・社会がスポーツの価値を十分に享受できるような取組を進める。あわせて、これまで育成・構築したドーピング防止活動に係る人材やネットワーク等を、国内外のスポーツ大会等に有効に活用できるよう取り組む。</p>				政策評価 実施予定時期	令和5年度 以降に実施
施策の予算額(当初予算) (千円)	令和3年度	令和4年度	施策に関する内閣の 重要施策(主なもの)	第3期スポーツ基本計画第3章(3)(4)(12)		
	—	25,344,069				

達成目標1	日本オリンピック委員会（JOC）及び日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）と連携し、各中央競技団体が行う競技力向上を支援する。 そうした取組を通じ、夏季及び冬季それぞれのオリ・パラ競技大会並びに各競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準の金メダル獲得数、メダル獲得総数、入賞数及びメダル獲得競技数等の実現を図る。					目標設定の考え方・根拠	我が国のアスリートが国際競技大会等において優れた成績を挙げること为目标としてひたむきに努力し、試合で躍動する姿は、国民の誇りや喜び、感動につながり、国民のスポーツの関心を高めるものであり、これを通じて国に活力をもたらすものである。このことから、第3期スポーツ基本計画（令和4年3月文部科学大臣決定）第3章（3）「国際競技力の向上」を踏まえ設定。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R1～R3年度（平均値）	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 競技団体の強化戦略プランの評価結果が高い競技は、東京大会において、メダル獲得を含む入賞数が多い傾向にあったため、高い評価を受けた競技団体の割合を測定指標に選定した。 なお、第3期スポーツ基本計画において、各競技団体が策定する強化戦略プランの実効化を支援するため、PDCAサイクルの各段階での支援を実施するとともに、この取組における各競技団体の評価結果を各種事業の資金配分に活用している。 東京・北京大会において好成績を残したことから、基準値は東京・北京大会向け強化戦略プランを適用していたR1～R3年度実績値の平均とする。 令和4年度から、パリ・ミラノ大会向け強化戦略プランが開始となり、それに伴い競技団体も新体制となったが、好成績につながった東京・北京大会向け強化戦略プランと同水準を維持できるよう、令和4年度以降の目標値を、基準値であるR1～R3年度実績の平均値に定める。 【出典】 文部科学省調べ ※強化戦略プランの評価ランク及び、競技力向上事業助成金の配分割合は以下のとおり。 A：120%、B：105%、C：100%、D：90%
①中央競技団体が策定する強化戦略プランの検証・評価において、上位2評価（A・B）に該当する競技団体の割合	94.7%	—	—	97.3%	94.7%	92.0%	94.7%	
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R3年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R6年度	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画において、強化合宿や競技大会におけるスポーツ医・科学、情報等を活用したトップアスリートへの支援、大規模国際競技大会におけるトップアスリートやコーチ等の競技直前の準備に必要な機能の提供により、トップアスリートに対して多面的で専門的かつ高度な支援を実施することとしており、オリンピック・パラリンピック大会での好成績をもたらす上では、競技団体のニーズに応じた満足度の高い支援の実施が重要と考えられることから、本測定指標を設定した。目標は令和6年度のパリ大会において、満足度100%を目指すこととする。 【出典】 文部科学省調べ
②オリンピック・パラリンピック競技大会等においてメダル獲得が有望なトップアスリートに対するスポーツ医・科学サポートを受けた競技団体の満足度	85.0%	—	—	—	—	85.0%	100.0%	
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
③オリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会における金メダル獲得数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準の金メダル獲得数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのオリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準の金メダル獲得数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
④オリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会におけるメダル獲得総数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準のメダル獲得総数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのオリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準のメダル獲得総数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
⑤オリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会における入賞数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準の入賞数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのオリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準の入賞数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
⑥オリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会におけるメダル獲得競技数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準のメダル獲得競技数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのオリンピック競技大会並びにオリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準のメダル獲得競技数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		

測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
⑦パラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会における金メダル獲得数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準の金メダル獲得数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのパラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準の金メダル獲得数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
⑧パラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会におけるメダル獲得総数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準のメダル獲得総数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのパラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準のメダル獲得総数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
⑨パラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会における入賞数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準の入賞数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのパラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準の入賞数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
⑩パラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会におけるメダル獲得競技数	—	—	—	—	—	—	過去最高水準のメダル獲得競技数	【測定指標の選定理由及び目標値の設定の根拠】 第3期スポーツ基本計画の政策目標として、各競技団体が行う競技力向上を支援し、夏季及び冬季それぞれのパラリンピック競技大会並びにパラリンピック競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準のメダル獲得競技数の実現を図ることを掲げていることから、本測定指標及び目標値を設定した。
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		

達成手段 (開始年度)	関連する 指標	行政事業レビュー 番号	備考
スポーツ支援強靱化のための基盤整備事業 (令和3年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0348	—
ハイパフォーマンス・サポート事業 (平成27年度)	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0349	—
先端のスポーツ医科学研究推進事業 (令和4年度) 【11-3】再掲	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	新04-0019	—
女性アスリートの育成・支援プロジェクト (平成25年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0351	—
国民体育大会開催事業 (昭和30年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0352	—
ナショナルトレーニングセンター競技別強化 拠点機能強化事業 (平成19年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0353	—
競技力向上支援体制の充実 (昭和43年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0354	—
日本オリンピック委員会補助 (平成2年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0355	—
独立行政法人日本スポーツ振興センター運営 費交付金に必要な経費 (平成15年度)	①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0356	—
独立行政法人日本スポーツ振興センター研究 施設整備費補助金 (平成23年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0357	—
独立行政法人日本スポーツ振興センター施設 整備 (令和3年度)	③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	0358	—
昨年度事前分析表からの変更点			

達成目標 2	スポーツの国際交流・協力を進めることで、スポーツ界における我が国の国際的な位置づけを高めるとともに、スポーツを通じた国・地域・人々のつながりを強める。						目標設定の考え方・根拠	スポーツの力を活用し、持続可能な社会や共生社会の実現に向けた取組が様々な形で進展しており、我が国はこのような国際的な動きをリードする立場から、様々なスポーツを通じた国際交流・協力に一層取り組んでいく必要がある。このことから、第3期「スポーツ基本計画」（令和4年3月文部科学大臣決定）第3章（4）「スポーツの国際交流・協力」を踏まえ設定。
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
①ポストスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）推進事業実施により交流した国・地域数及び裨益者数（累計）	—	—	—	—	—	—	14か国・地域、1,400,000人	【測定指標及び目標値の設定根拠】 パリ2024年オリパラ大会や2026年アジア競技大会（愛知・名古屋）に向け、国際的に日本のスポーツの存在感を示すとともに、国際的な課題である持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献するには官民協力による取組を先導し、2020年東京大会の開催国として取り組んできたSFTプログラムによるレガシー（裨益者数：204か国・地域、約1200万人）を発展させることが必要であることから、第3期スポーツ基本計画において、「SFT事業を通じて培われた官民ネットワークの活用等により、スポーツを通じた国際協力による存在感の発揮やSDGsの達成に貢献し、世界中の国々の700万人の人々への裨益を目指す。」と目標値を設定。本事業は事業期間を5年間としているため、本年度については14か国・地域及び、140万人の人々への裨益を目指す。 【出典】 文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	R3年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
②国際競技団体（IF）等における日本人役員数	37	29	30	35	35	37	37	【測定指標及び目標値の設定根拠】 IF等の政策決定過程において情報収集・発信を行うことができる人材の活躍が、国際スポーツ界における我が国の位置づけを高めることから、IF等における日本人役員数を測定指標とする。目標値については、第3期スポーツ基本計画において、国際スポーツ界の意思決定や競技発展に積極的に貢献するため、IF等役員ポスト37名（令和3年度実績値）の規模を維持することが数値目標とされていることから設定。 【出典】 文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
達成手段（開始年度）		関連する指標			行政事業レビュー番号	備考		
スポーツ国際展開基盤形成事業（平成27年度）		①			0342	—		
ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業（令和4年度）		②			新04-0018	—		
昨年度事前分析表からの変更点								

達成目標 3	我が国のスポーツ・インテグリティを高め、クリーンでフェアなスポーツの推進に一体的に取り組むことで、国民・社会がスポーツの価値を十分に享受できるような取組を進める。（ガバナンスコード等については施策目標11-3に記載。）					目標設定の考え方・根拠	フェアプレーに徹するアスリートを守り、スポーツにおける公平性・公正性を確保するためには、ドーピング防止活動を含むスポーツ・インテグリティの向上が必要であることから、第3期「スポーツ基本計画」（令和4年3月文部科学大臣決定）第3章（12）「スポーツ・インテグリティの確保」を踏まえ設定。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
①オリンピック・パラリンピック競技種目における国内競技連盟所属選手によるドーピング防止規則違反件数	—	8件	6件	2件	1件	1件	0件	【測定指標及び目標値の根拠】 ・第3期スポーツ基本計画では、ドーピング検査体制等の整備、国際的なドーピング防止活動、教育研修活動、及び研究活動を通じてドーピング防止活動を推進し、クリーンでフェアなスポーツの推進に取り組むとしていることから、本測定指標及び目標値を設定した。 【出典】 文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—		
達成手段（開始年度）		関連する指標		行政事業レビュー番号		備考		
ドーピング防止活動推進事業（平成18年度）		①		0360		—		
世界ドーピング防止機構等関係経費（平成13年度）		①		0361		—		
世界ドーピング防止機構拠出金（平成14年度）		①		0362		—		
ドーピング検査員の感染予防対策支援事業（令和3年度）		①		0363		—		
昨年度事前分析表からの変更点								